

庁舎整備に係るこれまでの主なできごと〔年表〕

年度	できごと	内容
S53	・現庁舎竣工	・建築後42年以上が経過し、老朽化している
S56	・建築基準法の耐震基準改正	・この基準の前後で耐震性能が大きく異なる
H8	・庁舎耐震診断を実施	・現庁舎の耐震不足が判明
H10 ～19	・小、中学校5校の耐震工事 ・百合が丘保育園耐震工事	・学校や保育園の耐震工事を優先して事業を進める
H26	・庁舎耐震診断結果を再評価 H16 新潟県中越地震、H19 新潟県中越沖地震 H23 東日本大震災	・1、2階の耐震性能(Is 値)は 0.41～0.53 で、大地震時に倒壊または崩壊する危険性があると判明
H28	・ 熊本地震発生 ・「公共施設再配置・町有地有効活用実施計画策定方針」を策定	・5 つの市町で庁舎が被災し復興の遅れの原因になる ・議会より庁舎の耐震性を問われスピード感を上げるため、 庁舎は公共施設と別に検討することに
H29	・「二宮町役場庁舎整備手法調査報告書」を作成。「ラディアン周辺への移転」が最善と判断。より具体的な検討へ ・「公共施設再配置・町有地有効活用実施計画」を策定	・庁舎整備について、現庁舎の耐震化、現在の場所で建替え、東大跡地に移転、ラディアン周辺に移転と比較検討。 ・今後 10 年間の町の公共施設の方向性について検討
H30	・新庁舎整備に関するアンケートの実施 ・ 新庁舎建設基本構想・基本計画(案)を作成(免震構造、26 億円、4,400 m²) ・(案)への意見募集(パブリックコメント) ・役場庁舎建設町民検討会(3 回) ・町民説明会を開催(3 回) ・議会より、 基本設計予算を否決 される	・1,000 通(年代均等、無作為抽出) ・アンケート結果を反映して(案)へ反映 ・11 名より 55 件の意見提出 ・町内団体選出委員、公募委員により計画(案)を議論 ・町内各所 3 会場にて開催 ・主に 建設コスト、財政面への懸念 を示される。
R1	・ 新庁舎建設基本構想・基本計画(案)の見直し(※耐震構造、20 億円、4,000 m²) ・町民説明会(2 回目)を開催 ・議会より、 基本設計予算を再度、否決 される ・地区との意見交換会を実施 ・県の「洪水浸水想定区域図」の改訂を受けてより慎重な検討が必要と判断し、 基本計画(案)の部分を白紙に。 ・ 建設予定地は「ラディアン周辺」として基本構想に位置付け ・町民とともに改めて基本計画をつくるためのワークショップ開催の予算について議会承認を得る	・ 計画(案)における建物構造を見直しと規模を縮減し、概算事業費を削減 ・町民センターにて全 3 回開催 ・主に、 町民の意見をまだまだ聞いておらず、理解が進んでいないとの懸念 を示される。 ・町内全 20 地区で実施 ・これまで建設予定地(第一駐車場)で懸念されていた「計画規模」(50 年に一度の確率の大雨)の浸水想定範囲は狭まったものの、新たに「想定最大規模」(千年に一度の確率の大雨)のリスクが追加された。 ・浸水の可能性、地震のリスクなど様々な災害を正しく評価し、非常時と日ごろの利便性をどう考えるか整理した上で、庁舎に必要とされる機能やラディアンとの連携などについて検討していく